

第3期庄原市長期総合計画調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和8年1月28日(水) 第1委員会室
2. 出席議員 福山権二委員長 横路政之副委員長 谷口隆明 徳永泰臣 近藤久子 五島誠 吉川遂也 國利知史 松本みのり 前田智永 岡野茂 宇山茂之 堀井慎一郎 桜田亮太 堀内富夫 木山義仁 青山学 松森潤平
3. 欠席議員 なし
4. 事務局職員 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 足羽幸宏企画振興部長 田部伸宏企画課長 安藤秀明企画課企画調整係長 山上翔大企画課企画調整係主任主事
6. 傍聴者 なし
7. 会議に付した事件

- 1 第3期庄原市長期総合計画について

午後0時56分 開 会

- 福山権二委員長 それでは、第4回の第3期庄原市長期総合計画調査特別委員会を始めます。全委員18名出席です。この委員会において、傍聴、録音、写真撮影を許可しています。

- 1 第3期庄原市長期総合計画について

- 福山権二委員長 本日の調査特別委員会は、昨年12月19日に開催した第3回の委員会で委員の皆さんから出された、計画の修正・追加等の御意見に対する執行者からの検討結果について報告を受けます。既にその検討結果を踏まえて第3期長期総合計画案が示されていますので、執行者の説明は計画案に沿って行われると思います。本日の関係資料は全てタブレットに、委員会のレジュメと4点の資料、調査特別委員会における意見、パブリックコメントの結果、主な修正点、長期総合計画(答申案)が記載されていますので、ぜひ御参照ください。それでは執行者から説明を受けます。課長。
- 田部伸宏企画課長 それでは、まず資料の確認をさせていただきます。今日は4つの資料を御用意しています。分量が多いですが、なるべく簡潔に説明していきたいと思います。資料1は、前回、1月5日の調査特別委員会で頂いた御意見等について検討した結果を列挙したものです。資料2は、先週の1月23日まで実施していたパブリックコメントで頂いた御意見について、これから回答を公表したいと思っておりますが、現時点での考え方を示した資料です。資料3は、先ほどの調査特別委員会への対応とパブリックコメントへの対応等をまとめて、前回お示した素案からの修正点についてまとめた資料です。資料4は、そうしたものを整理した答申案としていますが、明日予定をしている長期総合計画審議会へ示していく素案です。それでは、まず資料1から説明いたします。こちらにつきましては、前回の調査特別委員会で多くの御意見を頂きました。内容については、それぞれ似通ったものもありましたので、少しこちらで整理させていただいて、全24項目について、考え方や対応、修正等について検討した結果を整理しています。本日は、修正であるとか、少し考え方について御説

明したいところを中心に進めさせていただきますが、それ以外の御意見についても考え方をまとめていますので、また御意見等を頂ければと思います。表の左端にある番号で御覧ください。まず、2番、基本事項に対する御指摘です。「近年では特に女性の転出超過により社会減の増加」という記載について、もう少し踏み込んだ表現、若い女性の転出超過が現実ではないかという御指摘がありました。そうしたことを踏まえて、実際のデータ等も整理する中で、修正後を御覧ください。下線部分、「近年では特に10代後半から20代の女性の転出超過による社会減の増加があげられます」ということで、少し表記を修正しています。1つ飛んで、4番、基本構想に関する指標の言葉遣いについてです。指標の表現が分かりづらいのではないかと御指摘だったと捉えています。指標名についてはできるだけ簡素なものと考えてはいます。読まれた方々それぞれの解釈の幅がぶれることをできるだけ避けたいと、この指標の持つ意味を正確に伝えていきたいということから今回はこのような整理をしたということ御理解いただければと思います。続いて、6番です。基本構想の部分で、「市民の期待に応え」という表現について、若い世代に過剰なプレッシャーをかけているように伝わるのではないかと御意見です。こちらにつきましては、御指摘を真摯に受け止めると思いますか、そうしたことが伝わらない表現でしっかり説明していきたいとは思っています。前回も同様の回答をさせていただきましたけれども、当然そのような意図は持ち得ていません。そうした中で、一方では、公教育に公費が投じられている意味も含めて、そうしたバランスの中で、地域にとってと言うのが正しいのかも知れませんが、市民の将来を担う子供たちにすくすくと育ててほしい、育んでいきたいという思いも含めてこのように整理していますので、今回はこの部分については原文のままとさせていただきます。続いて、2ページの7番です。「市民の期待に応え」の表現が2つの柱で使われているが、その使い分けについてはどのように考えているのかということだったと思います。内容を精査いたしまして、4つ目の柱の行政経営の刷新における表現について修正を行いました。修正後を御覧ください。意味合いを整理いたしまして、「市民の負託に応える持続可能な姿勢を表現します。」と修正しています。続いて、9番、基本構想の部分で、「安心な暮らしの充実」の柱は、2つの柱を支える土台(基盤)ではないかという御意見だったと思います。こちらにつきましては、確かに言われるところはあるのかなという整理をしています。施策を打ち出すに当たって、目指す将来像の実現に向けた戦略を3つ並べたもので、基本的には人的資源の育成ということで、人を育てることが基盤になると考えていますが、言われるところ、まず短期的に安心をつくっていくということも1つ、まちづくりの基盤になるという考え方もあるかなと思います。そうしたことから、柱立てはこの3本といたしますけれども、デザイン等を工夫して構造的に、まずは暮らしを安心して満ちたものにしていくというニュアンスを伝えるような形で整理していきたいと考えていますので、御理解いただければと思います。少し飛んで、12番、基本計画の部分です。林業について、自伐型林業や木の駅プロジェクトという文言が必要ではないかということですが、こちらにつきましては、自伐型林業の効果は当然に認識していますけれども、規模が小さいといったこともあって、いわゆるなりわいとしての確立は難しいのではないかと考えており、基本計画への記載を見送っています。施策の段階でそうしたものについても今後の参考に、施策推進の検討には上がってくるかと思いますが、基本計画には記載していません。また、木の駅プロジェクトにつきましては、自走をされていること、それから、現時点では新たな取組の相談等も受けていませんので今回の長期総合計画への記載は見送ったという判断です。続いて、3ページに移ります。14番、農作業受託やスマート農業ですが、2つの施策にまたがっており、安心な暮ら

しの充実、地域経済の施策の部分において、生きがいを持って農業に取り組むといった前向きな表現があったほうがいいのではないかという御指摘だったと思います。スマート農業等の導入につきましては、農地保全、経済発展を進めるための農業のどちらにも必要なものということで両方の施策に記載がありますが、なりわいとして前向きに農業に取り組んでいただきたいという気持ちを喚起する表現も必要だろうということで、修正後を御覧ください。表現を変更しています。下線部につきましては、「自給食糧の生産力を維持し、地域内食糧自給率の向上を目指すとともに、農業に生きがいを持てるよう施策展開を行うことにより、次世代へ農地を継承し、農地が持続的に管理されるようにします。」という表現に変更いたしました。続いて、17番、基本計画の部分です。平和に関する施策についての御意見だったと思います。担当課と整理いたしました。修正後のように、施策に人権尊重社会の実現を1つ加えるとともに、その記述についても修正後のように下線部について整理しています。それぞれ2か所ありますけれども、「終戦から相当な期間が経過する中で、風化させることなく当時の記録を次世代につないでいく必要があります」、さらには、新たな施策として、「また、戦争の体験や被爆の実相を継承するため、セミナーやパネル展の実施など、恒久平和に対する継続的な啓発に取り組みます。」という表現を追加しています。続いて、18番、基本計画ですが、「困難女性」という表現について一考の余地があるのではないかということで、御覧の修正後のとおり、「困難な問題を抱える女性」に表現を修正いたしました。続いて、4ページ、20番、認定農業者等への作業受託の担い手に関する記述が必要ではないかということで、御覧の修正後のとおり、「さらに、地域計画のブラッシュアップを進めることで、担い手への農地の流動化の促進と集積を図ります。」と追記しています。続いて、21番、林業施策の市長の思いについて、少し表現が薄いのではないか、思いが込められてないのではないかという御指摘がありました。こちらにつきましては、そうした部分をもう少し打ち出すべきであるということで、追記をしています。修正後を御覧ください。少し長いので読み上げませんが、市長の思いが伝わるような形に整理いたしました。ということで、あと24番までそれぞれありますけれども、中には修正まで至らなかったものもありますが、御指摘いただいた意見については、施策展開の上で参考にできるところはしっかり整理していきたいと思っています。引き続きパブリックコメントの説明をさせていただいてもよろしいですか。

○福山権二委員長 はい。

○田部伸宏企画課長 それでは、資料2のパブリックコメントの結果についてを御覧ください。パブリックコメントにつきましては、昨年12月25日から先週の1月23日まで、約1か月間実施いたしました。御意見をくださった方は12名で、意見の件数につきましては、こちらである程度細分化したものもありますが、出していただいた意見を項目で分けたものもあり、それらを整理いたしますと、52件の御意見を頂いたところ。それぞれ意見等の概要のところについてはできるだけ頂いた意見の趣旨を損なわないように、かつ、読みやすいように整理しました。なかなか思いが強い方も当然おられて少し文章が長くなっていますが、これは逆に皆さんに意見をしっかり聞いてみたいという思いもあって幅広く取っています。全部をここで説明することは難しいですが、中には御意見を頂いて何点か修正したところがあります。様式が先ほどのものと違うので少し分かりづらいですが、資料3を御覧ください。資料3は、先ほどの調査特別委員会の御意見による修正とパブリックコメントによる修正を整理したもので、混在していて申し訳ないのですが、要はこれが全部修正部分ということで御理解いただければと思います。パブリックコメントの部分でいいますと、2番、基本構想の57ページに

- 福山権二委員長 松本委員、何番のことですか。
- 松本みのり委員 資料4の72ページ、施策の柱3の「市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成」という文言についてです。資料1、調査特別委員会における意見についてでは6番です。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 前回もそのようなお話を頂きましたし、言われるとおりに、パブリックコメントでも御意見を頂きました。この部分につきましては、何度も繰り返しになりますけれども、そのように読めないとわれればそれまでですが、我々としてはそういう意図で使っているのではないということの説明をしていくしかないのかなと思っています。正直なところ、誰が読んでそのように極端に捉えられるとは理解していません。説明不足だったのかもしれませんが、我々としては、期待というのはプレッシャーという意味での期待ではなくて、前回から言っているとおりに、子供たちも含めて、大人も含めての学習、学びであり、そうした人たちが将来を担うといえますか、担うということとあれですが、庄原にとって、また自身にとってすばらしい人生が送れるような学びを進めていきたい、作っていききたいという思いですので、これについてはこのままの形で進めさせていただければと思います。また、あしたの審議会でも御意見があるかもしれませんが、そこでも同様の説明を尽くしていきたいと思っています。
- 福山権二委員長 松本委員。
- 松本みのり委員 ただただ本来の願いがきちんとした形で伝わらないのがもったいないと思うばかりですが、そのことに対して市長は、そういう誤解もあるかもしれないけれどもこれでいきますよという思いでおられるのでしょうか。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 誤解という表現は多分適切ではないと思いますが、市長の思いとしては、これまで説明してきた思いであると御理解いただければと思います。
- 福山権二委員長 ほかにありますか。修正をされたり、このままでいくということで、今の説明でいいですか。國利委員。
- 國利知史委員 表現に関して、資料4の56ページ、基本計画の農業のところですが、なりわいという表現が結構出てきます。資料3、主な修正点についての5番です。ほかのところにも出ていますが、「なりわいとしての農産物」のところが少し気になるというか、その後に「自給食糧の生産力を維持し、地域内食糧自給率の向上を目指すとともに、農業に生きがいを持てるよう施策展開を行う」とありますが、なりわいというかどうか、それをなりわいとしている人と私は捉えてしまいます。林業にせよ、大型機械を導入するとか、なりわいとしている人にとってはこの計画はなるほどと思うけれども、自伐型林業では使えませんという答弁もありましたし、小規模でされている方がこれを見たときに、うちはなりわいではないよなど。例えば、兼業で道の駅に出荷しているくらいだよという人も地域の野菜の食糧自給率を上げる1つの役割を果たしていると思います。なのでこの、なりわいというのが少し引かかるのですけれども、その辺りはどうでしょうか。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 ここでいうなりわいは、単純に専門ということではなく、それで対価を得られている方、打って出て外貨を稼ぐというような大きなものではないのですけれども、農業や林業で少しでも収入を得られている方も含めての表現ということで御理解いただければと思います。専門という

ことにくくったものではありません。

○福山権二委員長　ほかにありますか。修正のところは大分多いのですけれども今出されたものを原案として考えているということですが、よろしいですか。松森委員。

○松森潤平委員　資料4の71ページの表ですけれども、ふるさと納税額が現状の数字から、5年後が約4倍、10年後が約7倍になっています。結構高い数字を掲げられたなと思っていますけれども、根拠というか、今後こういうことをしていきたいという考えがあれば教えてください。

○福山権二委員長　課長。

○田部伸宏企画課長　ふるさと納税につきましては、てこ入れということで、中間支援業者への委託も行っていきますので、そうしたことを踏まえた指標の設定と御理解いただければと思います。

○福山権二委員長　ほかにありますか。前田委員。

○前田智永委員　資料4の70ページ、人口減少への適応についてです。目指す姿のところで、地域名が庄原地域の中心市街地としか出ていないということで、先般の一般質問等々での答弁によると、庄原市内だけではなくそれぞれの地域でしていきますという答弁が多かったのかなと思いますけれども、あえて庄原地域の中心市街地という本当にコンパクトなところだけ挙げられたのがどうなのかなと。これは長期総合計画の大まかなところなので、結局は実施計画に沿って詳細な、具体的な施策を進めていくことになると思いますが、大まかなところで庄原地域の中心市街地だけにするとそごが生まれてくるのではないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○福山権二委員長　課長。

○田部伸宏企画課長　今回のコンパクトなまちづくりにつきましては、2段構えといえますか、今言われたところについては、都市機能の維持、再編・充実ということで、庄原市街地がその舞台となっています。それ以外の地域につきましては54、55ページ、柱でいいますと安心な暮らしの充実の、生活基盤にこれまで述べてきたようなことを、「市民が行政サービスや買い物や病院受診・金融手続きなど、欠かせない都市機能が身近に利用でき」ということで、支所地域の機能の維持といったことはこちらで進めていくように整理しています。55ページ上段にあるコンパクトなまちづくりというのは、まさにそこを意識したものです。

○福山権二委員長　前田委員。

○前田智永委員　これまでの調査でもそういった趣旨は伺っていましたし、同じようなことでもそれぞれ分けて書いていることもあるという話もあったのでそれは分かりますけれども、生活基盤と人口減少の区分けをされて、人口減少への適応は庄原地域の中心市街地ですけれども生活基盤は守っていく程度にしますよと捉えられかねないので、例えば、どちらにも適応ができるように、実施計画ではもちろんそこは抜けていたら指摘するところだと思いますけれども、そういうことも踏まえてきちんと分けていかないと、こちらには書かれているけれどもこちらには書かれていないというのもどうなのかなと思います。もう一度お願いします。

○福山権二委員長　そういう計画の書き方、立案の仕方について問題があるのではないかと。課長。

○田部伸宏企画課長　今回の計画は、限りなく重複をなくすということで、何を主目的にするのかということを中心軸に考えています。支所周辺の生活機能の維持は地域の方々の暮らしの安心の充実に直結するというので、施策としてはこちらに設定しています。一方では、人口減少のことを考えていないということではなく、人口流出を止めるためには庄原市の都市機能も1つ拠点を置いて整理してい

くべきではないかという考え方に立って、先ほどの 70 ページの施策の考え方に基づいて設定しています。どちらがどうだということではなく、もちろんどちらも必要ということで、それぞれ目的をきちんと色分けしてこの計画に整理したと御理解いただければと思います。

○福山権二委員長 前田委員。

○前田智永委員 それは分りますけれども、生活基盤と人口減少への適応という、今あるものは守る生活基盤と、挑戦をしていく人口減少への施策展開というイメージを私は持ちます。なので、今のことを守るプラス人口減少対策をするというのはどちらも同じことをしているわけで、ここをはっきり分けてしまうと自分たちはもう挑戦をせずにここの生活を守るのかと捉えられかねないのではないかと思います。もう一度お願いします。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 71 ページでも、「本市全体を人口減少に適応できる構造となるよう転換を推進します。」と考えを述べています。いろいろな御意見はもちろん参考にといいますか、施策のところではそうした懸念が出ないように取り組んでいきたいと思いますが、今回の計画についてはこのようなセットを進めていきたいということで御理解いただければと思います。

○福山権二委員長 吉川委員。

○吉川遂也委員 56、57 ページ、地域経済の達成を目指す指標の中に農林振興公社の農作業受託面積や産直市売上額、なみか・ほろかカード決済額が載っていますが、例えば、62 ページ、農林業の達成を目指す指標の中には先ほど言ったような農業振興に関する指標は出てきません。先に載せたからそういう整理をされているのだと思いますが、農林業から見ると達成すべき目標は2つしかないと見られるかもしれない。目次で前からずっとページをめくっていけば頭の中でその整理ができるかもしれないけれども、ぱっとデータだけ見るときには、農林業の指標が、ここにはないけれども前の地域経済にあるのですよという説明よりも、両方書いておいてもいいのではないかと思います。地域経済の指標にも併記しているという注意書きをするとか、何かそういう工夫があってもいいのかなど。前に書いてあるからこちらの農林業のほうには書かなくてもいいとか、なみか・ほろかカード決済額は商工業のほうには書かなくてもいいという整理をしているけれども、見るほうからすれば重複していても別にいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 今回の指標につきましても、先ほど来申し上げていきますとおり、その目的を明確にして、目指す姿を映し出す指標をそれぞれの施策にセットしていますので、考え方とすると、前に載っている 57 ページの指標は、あくまでも 56 ページの施策領域、地域経済を表す K P I。後ほど出てくる 63 ページの指標は、施策領域、農林業。これは将来に希望が繋がっていく仕組みづくりという、基盤産業化する農林業の指標と捉えています。要は前に載っていて後ろにあるものということではなくそれぞれの施策ごとにこの指標を設定したと御理解いただければと思います。

○福山権二委員長 吉川委員。

○吉川遂也委員 若干理解するのが難しいけれども、説明を受ければ分かります。縦割り行政に慣れているから我々はそのように読むのかもしれませんが。市民の一般的な見方とすれば、くくりで商工業・農林業と書かれていれば、まず自分の関連するところを見るという見方になるのかなと思いますが、説明を受ければ理解できるので、しっかり説明をされればいいと思います。

○福山権二委員長　　よろしいですか。谷口委員。

○谷口隆明委員　　基本計画の56ページ。先ほど自伐型林業のことを言われました。私はこれにこだわるのですが、小規模な林家が多いから自伐型林業ができないという問題ではなくて、この前も言いましたように、今、林野庁も含めて、自伐型林業あるいは小規模林家の育成のために、新たな補助制度も含めて林業の底辺を広げて、林業だけではなく半農半Xや副業をしながら雇用の場もつくっていくということで、全国的に行政ぐるみで自伐型林業が広がっています。庄原市はそういう条件が一番あると思います。それを最初から、小さい林家が多いのでこれはもう取り扱わないというのは、全国の最先端の流れから取り残されていくのではないかと思いますので、その辺を担当課と、全国の流れも含めてよく検討していただいたほうが禍根を残さないのではないかなと私は思います。

○田部伸宏企画課長　　施策検討の段階でまた整理させていただきます。

○福山権二委員長　　五島委員。

○五島誠委員　　資料2、パブリックコメントの結果についてを見ると、第3期の計画を立てるに当たって第1期・第2期の分析が甘いのではないかというような意見があつて、それに対する答えも書かれています。確かに、資料4の答申案の基本構想の9ページから第2期計画の検証ということで整理をされていて、政策・施策ごとの検証はされているのかなと思いますが、根本的なところの第2期計画がどうだったのか。特に第2期計画では人口減少問題が最重要課題となった中で、そこに対する言及があまり見られないというのは、要は何で目標よりも人口が少なくなったのかということに少しはフォーカスしないと、第3期の計画を立てるに当たって、目標の立て方がという感じになってしまっています。整理の仕方として、パブリックコメントを見て確かになと思う部分もあつたので、その辺りの受け止めを、ここに回答が書かれているけれども御答弁いただきたいと思います。

○福山権二委員長　　課長。

○田部伸宏企画課長　　パブリックコメントへの回答のとおり、分析自体はきちりしていますし、課題の整理といいますか、課題のあぶり出しのところではそういったデータや指標の推移などを構造的に整理して出しています。人口目標を立てることの困難性といいますか、この事業を行ったことによってこの人数がといった因果関係については立証が非常に難しいということは一いつ御理解いただけたかなと思っています。国も地方創生2.0ではそのようなことも言っています。そうした中で、全体的な総括が足りないのではないかということだろうと思いますけれども、そもそも総括が難しい事象なのかかなと思っています。各課でそれぞれの施策の課題や今後していかないといけないことは整理して計画に載せていますので、結果が基本計画のところに表れていると御理解いただければと思います。

○福山権二委員長　　五島委員。

○五島誠委員　　理解しないわけではないのですが、これをぱっと見たときに、新しい市長に変わって人口問題に真正面から取り組むという気概が少し感じられないなというのが率直な見方になるのかなと。そのように見られるのではないかと非常に大きな懸念を感じています。それこそがまさに、本市の抱える課題を何とか、市長選挙のときも言われていた、命がけで仕事をしていくのだという部分。別に長期総合計画は市長のマニフェストではないからいいのだけれども、作られたときの市長の思いは、この長期総合計画の中で今後10年間の未来を決めるに当たって大きく意向が反映されるものだと私は思います。

○福山権二委員長　　という意見がありました。課長。

- 田部伸宏企画課長 言われるとおり、我々は市長の思いがにじむ計画ということでつくっていますが、そうしたものが見えにくいということは真摯に受け止めて、今後の説明をしっかりと尽くしていきます。
- 福山権二委員長 五島委員。
- 五島誠委員 正直な話、私が今申した意見は部長・課長で答えられるところではないと思います。またしかるべきところでそうした発言をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
- 福山権二委員長 分かりました。いいですか。岡野委員。
- 岡野茂委員 先ほど吉川議員からもありましたけれども、長期総合計画、特に商工業や農林業等、地域経済にもあるしそれぞれの部門にもあるのですけれども、どうもこれを読むだけでは、農業をされている人や商工業をされてる人が、これから10年を考えたときに農業がどういうイメージになるのか、商工業はどのような形になっていくのか、林業はどのような形になっていくのかというのがイメージできないのです。例えば、地域経済で商工業と農業のことも書かれていますが、その掘り下げのところ。農林業のページでいえば、もう少し具体的に、10年かけてこういう農業を展開するのだと。あるいは林業をこういう形にするのだと。それで、農林業の中に畜産がないのです。畜産はどうするのかというのを、指標も含めてもう少し分かりやすく目的を挙げていただければと思います。例えば、スマート農業と書かれていますが、農地の集積化をどの程度に目標設定するのか。あるいは、今、国は基盤整備事業を行ってスマート農業を導入しやすい農地にしようという動きも集中的にしています。その中で庄原市がそういう基盤整備事業をどのくらいしていくのか。圃場の整備がないとスマート農業もできないと私は思います。そういう具体的な基盤整備事業等の目標、農地の集積等の目標、それから、畜産等の目標も入れないと読まれた方がイメージできないと思います。それと、商工業でも、商業の人たちはこれからどのような形で展開していくのか、あるいは中小企業の製造業の人たちはどのような形を目指していくのかがどうも読み取れないし、イメージができません。例えば、イラストでもいいのでその辺をもう少し何か補足するような形にすれば市民の皆さんも非常にイメージできるのではないかなと思います。重複を避けるのは分かるのですけれども、せめて掘り下げをする各施策の部門のところではもう少し分かりやすい目標設定をしていただくようにお願いします。
- 福山権二委員長 結局、基本構想・基本計画という大きな枠組みの中に細かいことを全部入れて出さないといけないということですか。
- 岡野茂委員 いいえ。例えば、地域経済のところにも農業のこともあります。63ページには農林業とあります。農林業の指標を見ると、1,000万円以上の農産物販売金額の経営体割合と再造林面積しかありません。農林業を掘り下げているところにももう少し何か目標となる指標を入れないといけないと私は思います。例えば、これも分かりにくいのですが、1,000万円以上の農産物販売金額の経営体割合が、現状では4.7%ですけれども、中間目標には全国平均値以上と書かれています。これは農家の方が見ても分からないですよ。例えば、現状の令和6年の全国平均くらいは書かないと具体的なイメージがわかないと思います。その点を少し充実してもらいたいと思います。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 どこまで書くのかはこれまでも議論がありましたけれども、長期総合計画は大まかな方向性を示すものという整理の中で、読んでいただきやすく、手にとっていただきやすい分量で整理してきたところです。言われるような少し掘り下げた部分につきましては、またこの後出てきますけれども、農業振興計画といった個別計画のところはかなり丁寧に整理していますので、施策につ

いてはそういったものと合わせて御理解いただきたいと思います。ただ、言われるように、例えば、視覚的に何かキャッチーなものをということについてはそうかなと思いますので、少し工夫します。

○福山権二委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 例えば、これから農業を進めていく上で、土地の集積を進めていかななくてはいけない、あるいは担い手をつくっていかないといけない。農作業受託をするような組織も強化していけいかなければいけない、あるいは基盤整備等でスマート農業を推進するような圃場の整備もしていかないといけないという課題がありますよね。国も進めています。農業振興計画を見ればその辺が挙がっているということでもいいですね。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 お考えのものが全て挙がっているかどうかは別として、そうした細かい施策については農業振興計画に記載されていると承知しています。

○福山権二委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 せめて畜産業、比婆牛は出ていますけれども、乳牛、酪農等が、私が探せていないのかもしれないが出ていません。ここも物価が非常に上がって経営が非常に厳しい。だんだん少なくなっていく。生産者を維持していくこともこれから大事だと思いますけれども、その辺の考え方はこの計画になくても大丈夫なのですか。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 その部分につきましては、少しお時間をください。

○福山権二委員長 堀井委員。

○堀井慎一朗委員 今さらという感じもしますが、いろいろな施策の中で、いろいろな指標、目標、目指すべき指標を設定されていると思います。細かいことをこの場で伺うつもりはありませんけれども、設定した以上は、何らかのものを達成するために目標数値があるのだらうと思います。例えば、資料4の53ページに中間目標と最終目標の数値が同じものがあつたり、地域経済のところだと、なみか・ほろかカード決済額の間目標と最終目標に36億円という数字が出ています。なみか・ほろかカードに限った話をすると、基本的にはキャッシュレス協議会には自走してもらうというのが当初の目標だったと思います。その36億円という数字が達成できればそこがきちんと自走していける状態になるという数字の根拠はそれぞれ持っておられると思います。今日それを一つ一つ根拠は何ですかと伺うつもりはありませんが、それぞれの担当課において、なぜこの目標数値になったのか伺えばきちんと教えていただける、根拠がある数字になっているという理解でよろしいでしょうか。

○福山権二委員長 課長。

○田部伸宏企画課長 もちろん、バックデータはそろえています。

○福山権二委員長 堀内委員。

○堀内富夫委員 パブリックコメントへの返答で、「長期的な方向性を示す羅針盤として」と書かれていたのではと思ったのですが、要するにこれは、庄原市という船がいかにか安全に、遭難・沈没をせずに10年後も動き続けるのかという羅針盤を示しているということで、私は、宝島に向けてそのかじ取りをしていただけるものだとばかり思っていたので、そこで認識のずれがあつたのかなと。例えば、庄原市が安全に航海します、でもその途中で宝島を見つけた場合は市民の皆さんでかじ取りをしてもいいですよという認識でいいのでしょうか。

- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 私の認識が違っていたらあれですが、この船は市役所だけではなく市民の皆さんも事業者の皆さんもみんなで行き先を1つにして進んでいこうと。そのための航海図だと思っていたらと思えます。
- 福山権二委員長 堀内委員。
- 堀内富夫委員 だから、かじ取りは必ずしも市役所がするというわけではないということですか。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 かじ取りというニュアンスがちょっとどうなのかということはあると思いますが、もちろん、市役所が皆さんもう好きにしてくださいよと言うつもりはないですし、ある程度の方向性というか、こちらへ向かっていったらいいと思いますというのは出すべきだと思っています。その際に市民の皆さんから、そうではないという意見もあるし、そうだなという意見もあると思いますので、それをうまく組み上げてどのように持っていくかということが市役所の役目かなと思います。
- 福山権二委員長 木山委員。
- 木山義仁委員 資料4の56ページで、細かいですが少し大きいところで、「自給食糧の生産力を維持し」や、「地域内食糧自給率の向上」など、糧という字が使われていますが、一般的には料という字を使って食料全体を指すと認識しています。糧の字ですとカロリーベースとか米麦大豆とかで、恐らくそういった方向性ではないと思いますが、ここは料なのか糧なのか明確にさせていただきたいなど。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 すみません。少しお時間をください。
- 福山権二委員長 岡野委員。
- 岡野茂委員 これから10年を考えたときに、人口が減っていきます。そうすると、地域内経済のパイが小さくなっていくと思います。なので、そこを維持するというか、地域を活性化していくためには庄原市以外から来られた方の消費を促していくことがとても大事になると思います。その場合は、農業でいう農産物直売所といったところで消費していただくということもあると思いますけれども、観光交流施設を、今ある資源を磨いてもう少しグレードアップしていくことが大事だと思います。それと、宿泊施設の維持が大事だと思います。そういう意味では、観光消費額の目標数も上がっていないとまずいのではないかと思います。観光消費額の捉え方が非常に曖昧ということもありますが、最近精度も大分上がってきています。今、庄原市の観光消費額がこのくらいだけれども、何年後にはこのくらいを目指すと。当然、これからの実施計画の中にそういうことを実現する事業が入ってくるのだらうと思いますが、観光消費額について挙げたほうがいいのかと思いますけれども、どうでしょうか。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 御指摘のとおりかと思いますが、観光消費額につきましては、政策の柱のKG Iに挙げています。KP Iではなくもっと上のところで重要な指標として設定しています。
- 福山権二委員長 岡野委員。
- 岡野茂委員 観光振興のところに挙がっているほうが分かりやすいのではないかなと私は思います。
- 福山権二委員長 課長。
- 田部伸宏企画課長 むしろ、もっと大事な指標なので柱のKG Iに挙げたと、より重要視していると思理解いただけたらと思います。

- 福山権二委員長 五島委員。
- 五島誠委員 資料4として答申案があります。今後のスケジュールというか、あした審議会があると
思いますけれども、あしたの審議会で答申されるのか、まだもう1回審議会があるのかお伺いします。
- 田部伸宏企画課長 予定ではあしたの審議会が最終となっています。
- 福山権二委員長 審議会に議会からこういう意見が出ているというのは出されるのですか。
- 田部伸宏企画課長 今日の資料は全て提出いたします。
- 福山権二委員長 よろしいですか。長期総合計画の中で、基本事項、基本構想、基本計画について話を
聞きました。実施計画は予算を伴うため3月議会で十分に話をする事になると思いますので、一
応これで具体的なことについては、今般の長期総合計画の関係については調査特別委員会としてはこ
れで審議を終了して、実施計画については本会議で、今度は財政の予算の中で十分に詰めていくこと
にします。調査特別委員会のまとめについては正副委員長に御一任いただいて、3月議会で議案とし
て出てきますので、調査特別委員会に議案が付託されると思います。そこでまた議論していただいて、
最終的には委員長のまとめとして本会議に出すと。そのときに、採択するのか、修正するのか、否決
するのか、またそこでも議論はできますが、一応中身については、今日これで3項目については議論
を終結します。今後の日程も含めて、それでよろしいですか。五島委員。
- 五島誠委員 異論があるわけではないのですけれども、せっかくこうして委員の皆さんが集まってい
る中であるのだから、わざわざ終結宣言のようなことをする必要はないのではないかなと個人的には
思います。委員長が言われたように、まだこれから上程されて付託されるわけで、そこでも当然この
調査特別委員会がある以上、ここに付託されるものと思います。その議論もまだあるわけだし、あま
りそんなにやめる、もうこれでおしまいだということをしる必要はないと私は思います。
- 福山権二委員長 その意見とすれば、この調査特別委員会はもっと何かの任務を持って、3月議会以
降もしようということですか。
- 五島誠委員 そのことも含めて、今日にしても、執行者対委員の皆さんですけれども、委員会の討議
がもう少しあってもいいのかなと。そうしないと、今後、付託されたときに議論するに当たって、た
だそれに相對するだけになるので、この委員会としての方向性みたいなものも含めて少し話をする機
会があってもいいのかなと個人的には思っていたのですけれども。
- 福山権二委員長 委員会の方向性。この委員会は、執行者が提案した原案について、それがいいのか
悪いのか調査しますが、最終的には議案として出されて、そこで様々な議論をする場があるというこ
とで調査特別委員会をつくったので、今度の議会で調査特別委員会に付託されて、そこでまた議論し
て、最終的にこのように返そうとまとめる場はそこだと思いますけれども、それではいけませんか。
吉川委員。
- 吉川遂也委員 出された原案に対して議会として修正点があればということで審査してきたのであつ
て、最終的にそれが一時的な確定をすればこれ以上審査する場面はなくなるのではと思います。今
後それに付随する計画が出てきますけれども、そういうものについては各常任委員会でしっかり審査
する流れになると思うので、この次に上程されて議決するのが1つの区切りかなと思います。
- 福山権二委員長 当然そこまでは、この調査特別委員会はあります。それで、3月議会で議決して、
あとは実施については財政の関係でしっかりとしようということで、調査特別委員会の審議は3月議
会で終わるということだと思いますけれども。

- 五島誠委員　　確認しておかないといけないのは、この委員会は調査特別委員会であって、審査だけをするものではない。審査はこれから上程されてからするのですけれども、だからこそ今、閉会中に、上程前に、どういうものが出るのかなということで、今は調査の段階なのです。審査を終了して調査特別委員会はもうおしまいとなると、そうは言っても、実施計画についてはこれからある程度小出しにといいますか少し期間を、いろいろフレキシブルにするためにするわけで、そうしたときに、別に議論をずっと続けようというわけではなく、わざわざ終結する必要はないのではないですかと言っていただけの話です。何が起こるか分からないし、何を調査しないといけなくなるかは、はっきり言って流動的などころもあります。別にこの調査特別委員会ではなく常任委員会ですることは常任委員会ですればいいと思うし、もちろん予算決算常任委員会ですればいいところも分かるのでそこですればいいのですけれども。
- 横路政之副委員長　　調査特別委員会は、何があるか分からないからこのまま残しておいたほうがいいという思いですか。何もしなくてもいいけれども、つくったのだからとにかく名前だけは残したほうがいいということですか。
- 五島誠委員　　そうです。
- 横路政之副委員長　　ということですが、皆さん。
- 福山権二委員長　　前田委員。
- 前田智永委員　　今回の調査特別委員会は長期総合計画の調査をしていこうということで、出てきたものに対してそれぞれの議員の私見を述べつつ、執行者の意見を聞くということで行ってきたと思います。基本計画までかなと思っていたので、その後に残しておく意味がどこにあるのかなと思いますけれども、例えばどういうことを想定してあったほうがいいと思われるのか。
- 福山権二委員長　　一応説明は終わりましたので、執行者の方は退席してください。
〔執行者 退席〕
- 福山権二委員長　　再開します。
- 五島誠委員　　先ほどの前田委員の質問にお答えします。私が言っているのは、基本的には議決案件は基本計画までだから、基本計画のことが済んだらもうそれで終結すればいいのではないかと皆さんは言うけれども、わざわざ終結する必要があるのかなと思います。実施計画については3年ごとに出してくるわけで、実施計画は議決案件ではないけれども、ともすれば基本計画を変更する可能性だってあります。場合によってはそういうことも可能性としてある中で、そのたびにまたどこで議論しますかということを一いちするよりは、今回せつかくつくったのだから残しておけばいいと思うだけで、今回、中間報告として一区切りをつけるのだから別に終結宣言までする必要は、何かすごくやめようやめようという感じを委員長から受けるので、やめないでもいいのではと思います。
- 横路政之副委員長　　だから、4年間は調査特別委員会があってもいいのではないかというイメージですね。
- 五島誠委員　　そうです。
- 福山権二委員長　　どうでしょうか皆さん。松本委員。
- 松本みのり委員　　調査特別委員会を立ち上げるときに、時期もぎりぎりなのになぜ立ち上げるのかという話も出たかと思いますが、そのときに、つくって終わりではなくて、今後に向けての話なのでできてからもしっかり見ていきたいと思いますということで調査特別委員会を立ち上げましょうとお聞

きましたかと思えます。

○福山権二委員長　皆さん、何かありますか。議員全員協議会で説明を受けたけれども、きちんと調査特別委員会を組織して調査しようと。議会も今年選挙があったので、1年前から稼働しているわけではないので後追いにはなるけれども、調査特別委員会で基本計画まで集中的に調査して、一応大綱的なことはそれでオーケーするという形を取ろう、あとは具体的な予算審査の中で実行していこうと思っていました。調査特別委員会を維持してもあまり意味がないのではないかと。実際の議論の場は、説明は議員全員協議会であるとか、具体的な予算を伴うものなら予算ないし決算だし、次のことは決算で十分に審査すれば修正もできるし、大綱的なことについて、はみ出していけばそこでできるし、分科会のほうがより、もともとの考え方と違うとか、基本構想や基本計画という大きな枠組みから外れて提起しているかどうかということはないと思うけれども。今、いろいろな意見が出ました。詳細について、いろいろな計画と併せて各分科会、常任委員会でどうなのだろうかと議論をして予算審議と決算審議と。決算のときには1年間でこれだけ達成できたいという達成率も必ず出てきます。今、各委員会での議論をもっと活発にしようと言ってきているし、調査特別委員会はそれで任務が終了すると思うので、そんなにやめようやめようと思っているわけではないです。谷口委員。

○谷口隆明委員　議決案件は基本構想・基本計画までですから、それをこの調査特別委員会で議論して決着をつけようということであれば、3月議会で報告して議決すればそれで終わって、後の実施計画など具体的な計画については議員全員協議会とかそれぞれ今までどおりすることなのか、あるいは今意見が出ているように、そうではないと、今後、実施計画や、基本計画の変更もいろいろあるかもしれないのでこれは残してずっと議論していこうと、これまでの慣例からいえば議決してしまえばこの調査特別委員会は終わっていたけれども、そうしないほうがいいのかという意見、2つの意見があります。私はどちらかというと、議決してしまえばそれで終わって、あとは議員全員協議会とか各常任委員会でするようになるのかなと思っていましたが、そういう意見があるので。もう1個言わせていただくと、これは私の感想ですが、パブリックコメントにもあるように、この長期総合計画によって本当に10年後の姿がどうなるのか、私もこれではわかりません。だから、これを議決するに当たって、本当にこれでいいのかという気がしないでもないです。全部、実施計画とか諸計画に投げ出されているけれども、6月の市長の施政方針でも具体的なことは基本構想・基本計画で示しますと言われていています。それがなくて、長期総合計画には具体的なことは以下に任せますとなっているので、個人的には本当にこれでいいのかという気はしています。だから私は個人的には納得できていない。議決についても。ただ、調査特別委員会の今後について2つの意見が出たので、私はこう思うけれども皆さんどうですかという話で、私はもう終わってもいいと思ったのですけれども。

○福山権二委員長　堀内委員。

○堀内富夫委員　無知なので教えてほしいのですけれども、そもそも議員全員協議会と調査特別委員会の権能の違いは何ですか。

○福山権二委員長　議員全員協議会は当然全員が出席して、様々な協議・連絡をする。調査特別委員会は、決定したらそれが行政も議会も拘束するという。係長。

○横山和昭議会議務局議事調査係長　議員全員協議会というのは、あくまでも協議の場であって正式な意思決定の場ではありません。調査特別委員会は特定の事件を調査しましょうということで特別に設けられる委員会だと御理解いただければと思います。今回の調査特別委員会は第3期庄原市長期総合

計画に関する調査という目的を持って立ち上げられている委員会です。調査特別委員会は、原則は設置の目的が達成された段階で終了という考え方になります。

○福山権二委員長 吉川委員。

○吉川達也委員 今後、例えば、議論になっている計画についても、ここであるのか、あるいは常任委員会であるのか、議員全員協議会であるのかということがありますが、計画については常任委員会で専門性を持ってしっかり聞く必要があるのかなと思うのと、執行者側からすると、計画をつくったが、議員全員協議会にかければいいのか、調査特別委員会にかければいいのか、常任委員会にかければいいのか混乱すると思います。一度この計画を調査特別委員会にかけたら諸計画までずっと、全部議論していかないといけないということになると、議論が散逸するというか、議論のまとまりがなかなかつかないかなど。ある程度専門性を持って今までの流れであるとかそういったところをしっかりと審議していきたいと個人的にも思いますので、あったほうがいいのかという議論もあっていいのですけれども、今、事務局からあったように、一定の目的を達成したときには終結をするというのが整理としてはきれいかなと思います。

○福山権二委員長 五島委員。

○五島誠委員 こだわるわけではないのですがこだわっているのですよ。議会運営委員会で最初にこの調査特別委員会を立ち上げましょうというときから私は言っているのですけれども、前回の第2期長期総合計画調査特別委員会のときの反省もあります。ここで問われるのは、その実態はどうであれ、結局のところ、長期総合計画ができてそれを議決するまでが仕事ということにしてしまうと、できたら目的達成なのですかという話です。先ほど事務局が言われたように、調査特別委員会だから目的が達成された時点で終了です。その目的達成をどこにするのか、議決が終わったらもうそれで目的達成なのか、そうではなく、計画が実行力を持ってきちんと達成に向かって進んでいるのを調査するところまでを目的達成とするのかによって変わります。前回のときはできたら終わったわけです。その中で、なかなか文言整理くらいしかできることがなかったという意見もあったり。長期総合計画は最上位計画だから、当然、各常任委員会だったり、一般質問を含めてそれぞれの議会活動、議員活動の中で全てのことをしていきますが、形として、できたらなくしてしまう、もう役割はおしまい、もうこの調査特別委員会にすることは何もありませんということにしてしまうよりも、何かをするという実態があるわけではないかもしれないけれども、そうは言ってもあるかもしれない。先ほど委員長は、実施計画で整合性がないようなことなどあるわけがないと言われたけれども、あるかもしれないし、そういったときのためのことも含めて、わざわざここでもう調査特別委員会はおしまいです、できたらもうこの調査特別委員会の仕事はありませんとするよりは、見え方だったり個々人の気持ちの持ち方として長期総合計画調査特別委員会を残しておく議会のほうが私はいいのではないかといいことずっと言っています。

○福山権二委員長 私の意見は、提案されたものを調査特別委員会で調査して、それがみんなオーケーならそれで終わり。後のことは、議員全員協議会があるし、各常任委員会もあるからその中で検証すべきだと。だから、何かあったら計画は変わりますよ。ほとんど変わると言っているのだから変わりますよ。別に、変わる時には議員全員協議会でまた協議して話を進めればよいと思います。変わったから否決せよというのは実際の子算・決算のときにすればいいので。きちんと検証できる場自体はあるので。調査するための委員会だから、決まったらそれで調査特別委員会は解散ということで十分

に機能します。別に何かあったら残そうではないかということではないだろうと。

○五島誠委員 御理解いただけないのかなと思いますけれども、実際のところ別にそうすればいいと思います。そのほうが機能的だろうと思いますが、これは調査特別委員会だから、別に議決に関係するところだけを調査するのが委員会の仕事ではないのです。繰り返しになるけれども、わざわざ名前を消す必要があるのかなというのが私の思いです。もうそれだけです。もう消してもいいと皆さんが思うのならそうですけれども、わざわざ消す必要は全くないと思っています。

○福山権二委員長 いろいろな調査特別委員会をつくるのに消しようがないではないですか。もう調査特別委員会は任務達成しました、やめようということはどの調査特別委員会でもあるわけで。それが今回は長期総合計画の調査特別委員会だからと。

○五島誠委員 任務達成というのが、要はできて達成なのか、その後も見続ける立場として残しておいて達成なのかという考え方の違いだけだと思います。それだけです。

○福山権二委員長 前田委員。

○前田智永委員 五島議員に聞きたいのですが、今の議論の中で、今回の議決をもって終結するか、その後何かあるかどうか分からないけれども置いておいてどこかで終結するかの2択になっていると思います。今回の議決をもって終結するのは分かります。その後になにかあるのかなのか分からない状態で、どこで終結するべきなのかという考えはあるのですか。

○五島誠委員 それは明確にあります。議員の任期終了のときです。

○福山権二委員長 前田委員。

○前田智永委員 であるならば、任期終了のときに何を報告するのか。そのときにもし何もなければ報告する事項がないと思います。そこはどのように考えておられますか。

○五島誠委員 そこは別に報告する事項がないと、要は以降に調査した事実もなければ単純に事実を述べるくらいの報告しかできないと思います。

○福山権二委員長 吉川委員。

○吉川遂也委員 例えば、今回報告をすると。前回の地域生活交通に係る調査特別委員会に倣えば、また何か考えないといけない事案があったときには第2の長期総合計画調査特別委員会を立ち上げるという方向で、問題が起こって調査をする必要が生じたときに再度、議会運営委員会で立ち上げればいいのかと思います。そうすれば明確に報告事項を調査して報告することができるのかなと思いますけれども。

○福山権二委員長 堀内委員。

○堀内富夫委員 要するに、五島委員の思いとしては、長期総合計画が決まって執行部を安心させるのではなく、決まってからがスタートなのだから、そこまでも我々がいる限りは見ていますよという意思表示という意味合いで捉えていいですか。

○五島誠委員 もちろんそのメッセージ性も含むかなというようには。言われたことは分かるので、そのように捉えていただいても結構です。

○福山権二委員長 近藤委員。

○近藤久子委員 前回の長期総合計画のときには終了しました。ただ、終了したからといって、これはもう済みましたねということはありません。各委員会での議論も続きましたし、一般質問でもそれぞれ、長期総合計画にはこう書いてあるけれどもどこまで進んでいるのかとか、いろいろな質問の仕

方があったと思います。それは、市民を代表して私たちが出ているのであって、長期総合計画に対して、これで終わりではなく、これができたことに対してより厳しくこれを見つめていく立場にあるのだと思います。それをどのようにしていくのかは皆さんの動きによると思います。調査特別委員会をしないといけないのか、ここはうちの委員会でもっと詰めていこうとになるのか、それは今からの動きだと思います。このたびは、皆さん基本計画まで全て熟読されたと思います。それによって訂正すべきところは訂正されたと思います。でも、訂正されてもまだなかなか納得いかない部分もあった。それは今後の議員活動の中でしていけばいいと思います。私の考えは、これは終結してもよろしいかだと思います。かといって、全てが万歳ということではないまとめ方だと思うのは皆さんそうだと思いますけれども。

○福山権二委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 調査特別委員会に参加させていただいたのですけれども、不完全燃焼です。例えば、市からいろいろ説明を受けましたが、今まで議会の経緯では、市長はとにかく、過去にいろいろ質問しましたけれども、自分の施策は長期総合計画で具体的に示していくというスタンスでした。なので、長期総合計画は、さぞかし八谷色の、これから10年どのように庄原市を運営していこうというものが出されるのではないかと私は期待していました。ところがこれを読むと、八谷市長ではなく岡野市長でも福山市長でもいける内容です。あるいは、これは三次市の計画ですと言ってもいける内容だと思います。そういう、これからどのようにしていくという市長のカラーが見えないのです。見えないのは当然かもしれません。というのが、この基本構想・基本計画にぶら下がっていく、それを実現していくための実施計画、こういう事業をしていきますよというものがまだ出ていないので、今までと変わらないのではないかと。変化が見えないのです。それは今の時期だからそうなのかもしれませんが、いずれにせよ、調査特別委員会で調査したのですけれども、非常に不完全燃焼です。なので、どのように報告をされるかは分かりませんが、その辺を期待します。終結してもいいのではないかと私は思います。何かあればまた動いていけばいいと思いますが、これで終わりではないのは確かです。何が出てくるのか注目しておかないといけないと思います。

○福山権二委員長 大体、大きな意見とすれば、委員会は3月議会での委員長報告の段階で終わりということでもとめていきたいと思います。これで終わりではないので、実施計画を含めて十分に議会の権能を果たしていこうということで。ただ、これはどこが出しても、三次市長が出しても同じだというのはちょっと。当局も一生懸命考えて出すので、我々の不完全燃焼は次の行動で示していきたいと思います。一応、今日場でこの議論は終結して、3月議会での報告で調査特別委員会は終わるという日程でいいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○福山権二委員長 まとめについては大変厳しい要請がありましたが、正副委員長でぜひ皆さんの思いをしっかりとまとめるようにします。五島委員。

○五島誠委員 議決が終われば終わりということになるとは思いますけれども、その分のまとめまでここで委員長・副委員長に一任するのは少し時期尚早というか、まだ議決してない段階で、まだこれからも委員会は続きます。この調査特別委員会が終わる時期は決まったけれども、この段階でもうまとめについて考えるのは少し早いような気がします。

○福山権二委員長 吉川委員。

- 吉川遂也委員 付託の後、議論があって、討論があって、その後の報告のところは次の委員会で決定されればよろしいかと。
- 福山権二委員長 もちろんそのように進めていきます。今日のまとめを報告にしようとは思わないけれども。五島委員。
- 五島誠委員 終わる時期は決まったけれども、まだ調査特別委員会は続きます。それなのにもう終わるときのことを考えて議論するのは駄目だと私は思います。だから、まとめについて委員長・副委員長に一任することはできないと。
- 福山権二委員長 皆さんよく分かりました。今のところ委員長・副委員長がまとめる資格はないということですから、今はまとめません。そういう状況ではないと。もっと議論して、最終的に解散するときまとめ。本会議で調査特別委員会の報告をする前段で、報告について皆さんと相談して決めたいと思いますので、よろしくお願いします。よろしいですか。堀井委員。
- 堀井慎一郎委員 この委員会が立ち上がる当初から、期間が短い中で何ができるのかという話も出ていたと思います。結局、向こうは向こうで市民の代表の方に集まっていたで、様々な議論をされた上で議会にどうですかと出てきますよね。それに対して議会も意見を言ったと。今日も、変更なし、理解はできないけれども分かりましたというような、先ほど岡野委員が不完全燃焼と言われましたけれども、提案の仕方、要するに審議会との議会との関係性といいますか、どちらが先というのは当然向こうの審議会のほうが先にスタートされたと思いますが、ほぼ固まった時点で議会に報告されたのが今回だろうと思います。多少の文言整理などはされた部分もありますが、例えば、もっと早い段階で、こういう話になっていますよというベースというか、当局サイドとしてもある程度ひな形、原案を出されて、向こうでいろいろな議論をされて修正が入るといった流れになっていると思います。議会の調査特別委員会として、どういう時期にどういう形で提案を求めるといいですか、この中でその辺の整理を一定程度しておかないと、また次もこういう時期に出てきて、あまり修正ができない、もう手が増えられない状況で出てきてもこの委員会のできることがないといいますか、その辺のところは、私はどういう言い方をすればいいのかはわかりませんが、こちら側のスタンスというか、そういうことを委員会のまとめの中に少し盛り込んでいただけないかなと思いましたので少し発言させていただきました。
- 福山権二委員長 分かりました。横路副委員長。
- 横路政之副委員長 議会との関わり。後出しではなく、もう少し同等に扱えという思いですか。
- 堀井慎一郎委員 最終的には議決場で議会としての意思表示をするものだと思いますので、この委員会の中で、予算案のように原案に賛成ですというまとめになっていくのか、どういうまとめになるのかはあれですけども、委員会としてはよしとしても議場の中で個人としては反対ということもあります。そうすると、どうしても理解はできないけれども仕方ないですねというところが少し引っかかるので、そこをどういった形であればより歩み寄れる段階でこういう委員会が開かれていくのかというところは、少し知恵を出すといいますか、どういうものなのかなという思いがあります。
- 福山権二委員長 國利委員。
- 國利知史委員 今、堀井委員が言われたことと若干似たようなことを市民と語る会でも何回か言われました。長期総合計画をつくる上で、もっと議員が積極的に関わるべきだと言われました。こちらとしては調査特別委員会を立ち上げる予定にはなっていますがと回答したと思います。だから、今言われ

たような、時期的にどうなのかとか、向こうから提案があったから立ち上げるというのはもちろん分かりますけれども、例えば、見直しをかけるとか、次の新しい第4期の時期に前もって先にこちらで立ち上げておいて初期の段階から関わりを持つことも可能性として。今回はもう終わったのですけれども、次回からはそういう反省も踏まえて考えていくのも1つの方法かなと思います。

○福山権二委員長 前田委員。

○前田智永委員 長期総合計画に関しては、首長なり執行部がつくるものという立てつけがある中で、議会としてどこまで関われるのかということは本当に考えていかないといけない課題だと思いますけれども、それをのおのおので考えてあれだけ一般質問が噴出したのだと思います。あそこでも十分に議論を、納得いくかいかないかはもちろんありますけれども、向こうも歩み寄って考えた上でこの結果なのだと思います。これで納得いくかいかないかはこちらの考え方であって、それまでに執行者も自分たちだけで、市長だけで考えたわけではなく、今回、新たにワークショップを3回もされました。それから、審議会でも今まで以上に検討されたと聞いていますし、それぞれ1人ずつきちんと意見を述べる時間をしっかり設けていただいたと審議会に参加された方からも伺ったので、そこはしっかり考えた上で策定だったかなと思います。議会としてどれくらい関われるのかという議論はあってもいいのですけれども、今回のやり方として、素案の前の段階で聞けたかという多分聞けなかったと思います。いろいろと担当課からずっと話を聞いてきた中で、それは大まかなところできてこないとお示しできないというのは何の計画でも言われます。堀井委員は執行者側におられたのでよくお分かりだと思いますけれども、どの段階でできたのかという議論は難しいのではないかなと思います。

○福山権二委員長 総合的に言うと、どうせ議会でも審議するのなら早いうちに、長期総合計画が出るタイミングは分かるので、1年前とか早い時期に対応する組織をつくっていかうということですね。

○堀井慎一朗委員 そうです。

○福山権二委員長 今回、4月に選挙があって新しい体制になって、そこですぐ調査特別委員会をつくらうとしなかったのは1つの反省だと思います。その辺は今後の議会で議論していきましょう。

○福山権二委員長 分かりました。横路副委員長

○横路政之副委員長 向こうでいう審議会、部会かな。私は1回出たのですけれども、議員が1回も来られていないという意見も出たので、その辺も見せていかないと、市議会議員の本気度というものを向こうは軽く見てくるのかなという感じも受けました。これは感想です。

○福山権二委員長 今の話は分かりましたか。審議会があるので傍聴に行こうとか、そういう関わりをしていったほうがいいという話です。それでは長時間ありがとうございました。基本的には審議は3月で終わりということで対応していきます。取りまとめはきちんとその最後の場面になってからするというので。以上で本日の委員会を終わります。

午後2時40分 閉 会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

第3期庄原市長期総合計画調査特別委員会

委員長